講話＝in 日本山岳会(三水会)

登山と
山岳スポーツのちがい

田　中　文　夫

2018年11月21日(水)

日本山岳文化学会　正会員

日本山岳文化学会

日本学術会議協力学術研究団体

山岳に関する幅広い研究活動と大会発表

論集、機関紙、会報を発行

設　立 ： 2003年3月

会員数 ： 300余名

丹沢山麓　山岳文化講座

有志と中村純二先生、春・秋　⇒　今秋で9回目

第1回目　➡　2014.年2月19日　　in おおすみ山居

第9回目　➡　2018年10月20－21日　　in 作治小屋

田中文夫 ＜◆著作・印刷 物＞

◆ 青春のヒマラヤに学ぶ（2001年）文芸社

◆ 頂のかなたに（2003年）日本文学館

- 若き日の山々（2014年）
- 老いの道標（2014年）
- 登山の総合人間学（2015年）国立国会図書館蔵書
- 登山の生態分類（学）（2016年）国立国会図書館蔵書
- 山の空気 森のざわめき（2017年）国立国会図書館蔵書
- 山と美の終焉（2017年）国立国会図書館蔵書
- 雑学 日本文明物語（2018年）国立国会図書館蔵書
- 烏尾山仲尾根物語（2018年）
- 丹沢山麓 山岳文化集（2018年）日本山岳文化学会有志

共著＝中村純二・あや、田中文夫、岩楯岳一・志帆、 編集＝田中文夫

登山と山岳スポーツのちがい

2018年11月21日 （水）

日本山岳会 （三水会）

日本山岳文化学会会員　田 中 文 夫

登山とスポーツの

概念と変化

登山の概念　（定義ではありません）

- ◆ 登山は、山を登ることを目的とした行為
- ◆ その登山は、身体的運動諸要素と、知的で理性的諸要素と、情緒的感受性諸要素がおりなす　→　自己統合行為

スポーツの概念　（定義ではありません）

- ◆ 遊戯の性格を持ち、自己または他人との競争、あるいは自然の障害との対決を含む運動（国際スポーツ・体育協議会 ＝ ICSPC）
- ◆ 日本における近代スポーツの特徴　→　国民体育とオリンピック

① 向上心　② 教育的　③ 倫理的　④ 知的・技術的

⑤ 組織的　⑥ 都市的　⑦ 非暴力的　※ 生真面目さ！

現代 スポーツは産業化(プロ)、ゲーム化(確率・映像)されてきた

登山内容の変化　（無償の征服者＝リオネル・テレイ）

◆ 宗教的行為（修行） → 科学的行為（探検・冒険） → 余暇消費的行為（レジャー産業化） → 観光・産業化（遠足）

・ 日本山岳会 ＝ 近代登山を発展（宗教的 → 科学・文化的）

・ 第二次RCC ＝ 登山の情緒的要素を捨て去り、アルピニズムをスポーツ的見地から追及（スポーツ化の先駆け）

・ 日本山岳文化学会・第二代会長（大森薫雄） ＝ 登山は賢者のスポーツ

※ 登山はホモ・サピエンス（人間）の総合・統合行為という理解に欠ける

スポーツ内容の変化（ホモ・ルーデンス → ホモ・エコノミクス）

◆ 遊戯（身体的遊び） → 興行（奴隷、見世物） → 個人競技（古代・オリンピック） → 組織化競技（旧・オリンピック） → 産業・情報・組織化競技（現代オリンピック） → 産業・ゲーム化

スポーツクライミング・山岳スポーツ → 登山と別分野

1978年 ヒマラヤで

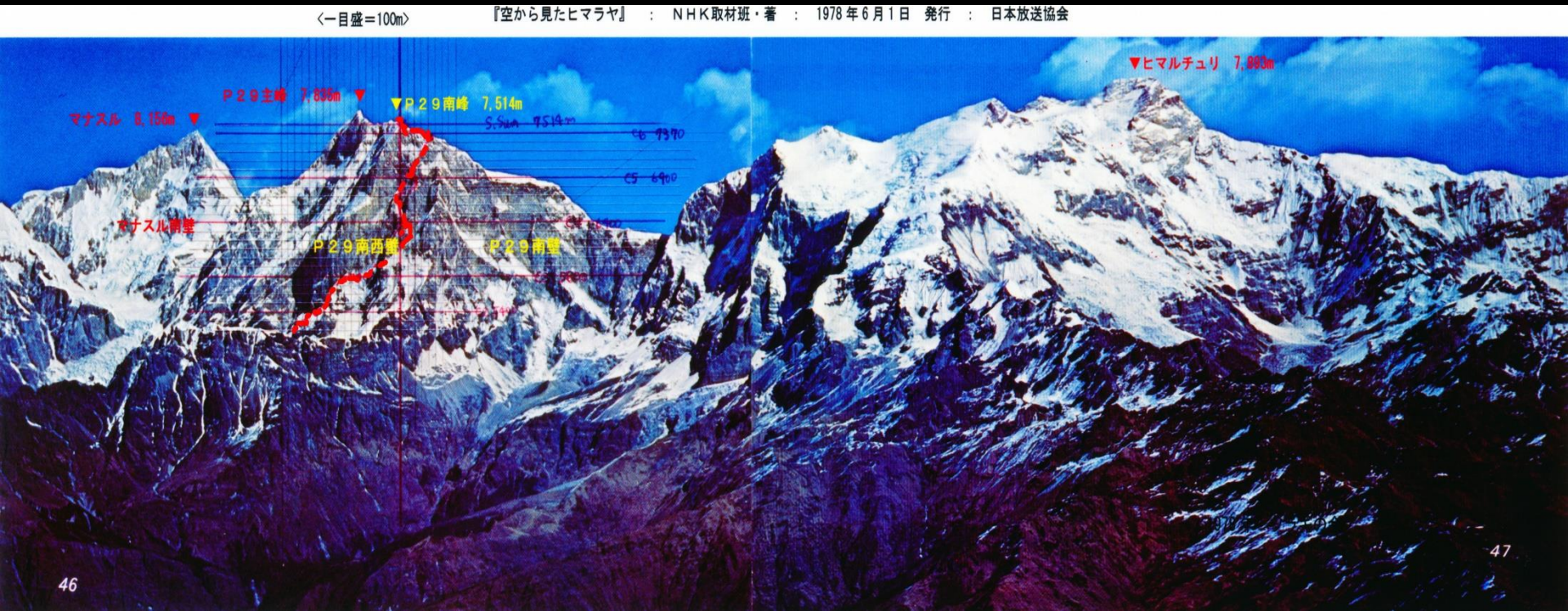
遭難死亡事故における

私の登山体験

マナスル３山は日本隊が初登頂

マナスル（８１６３m）	Ｐ２９（７８７１m）	ヒマルチュリ（７８９３m）
日本山岳会	大阪大学	慶応大学
１９５６年	１９７０年	１９６０年

以降、山の高さは１９７８年当時の古いデータのままとします。



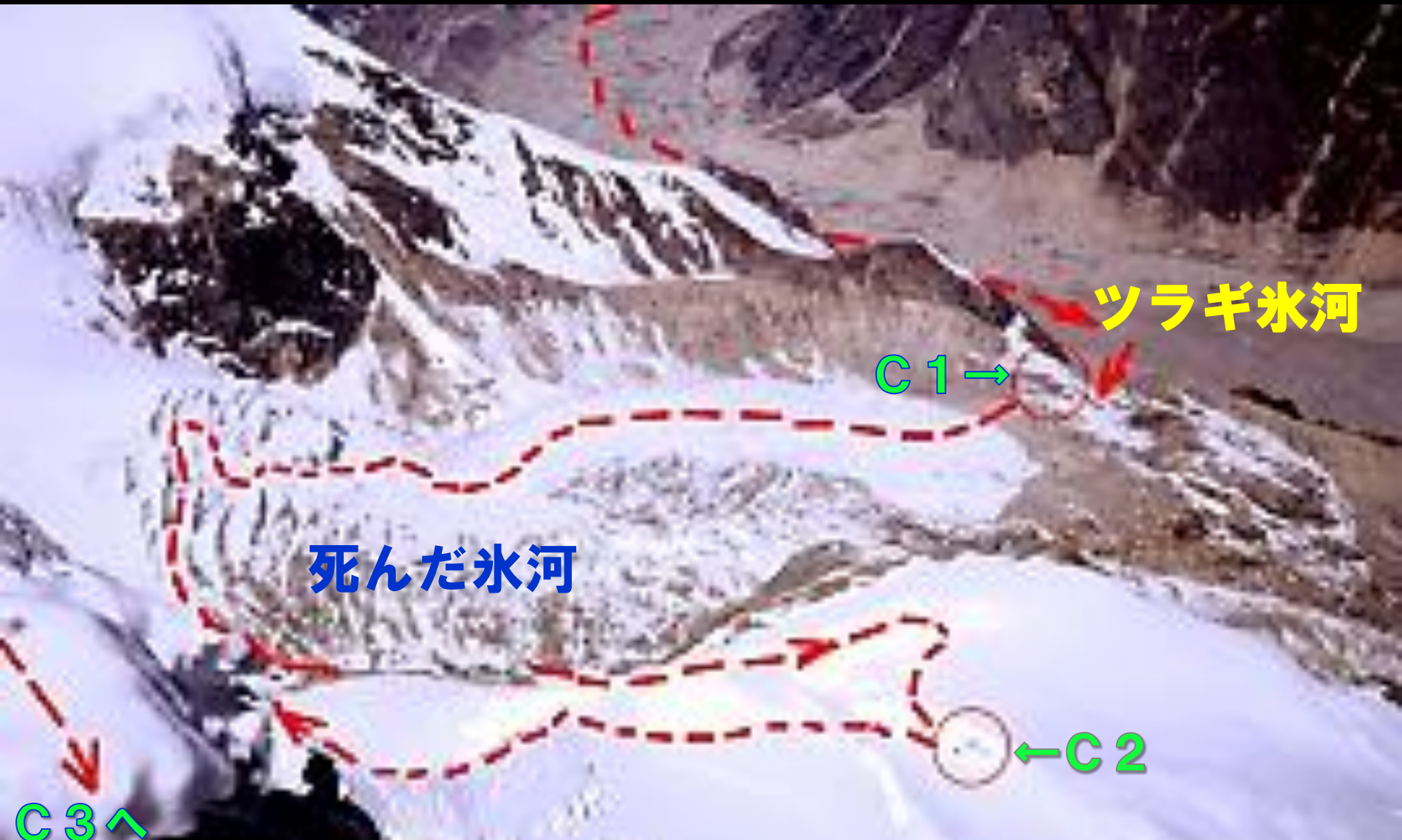
Ｐ２９南西壁登攀（１９７４年、１９７８年）

氷河から 2, 000m 登る

傾斜60°　南西壁の始まり ▼

足元を見下ろすと！氷河

氷河からの高度差≒1，400m



6，000m　大岩壁直下

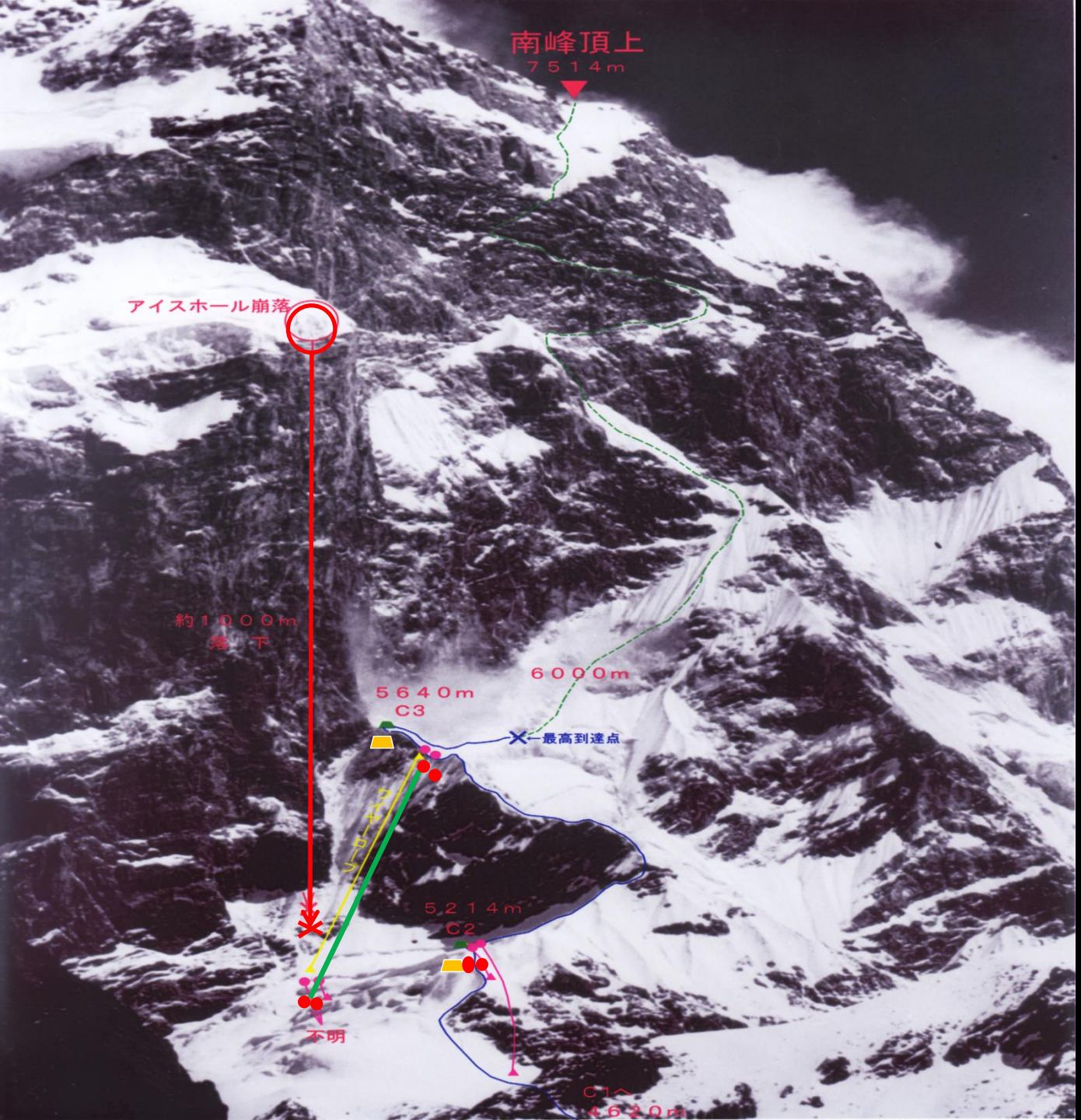
▼セカンドを登るサーダー（シェルパ頭）

高度6,000m氷の尾根を登る2隊員

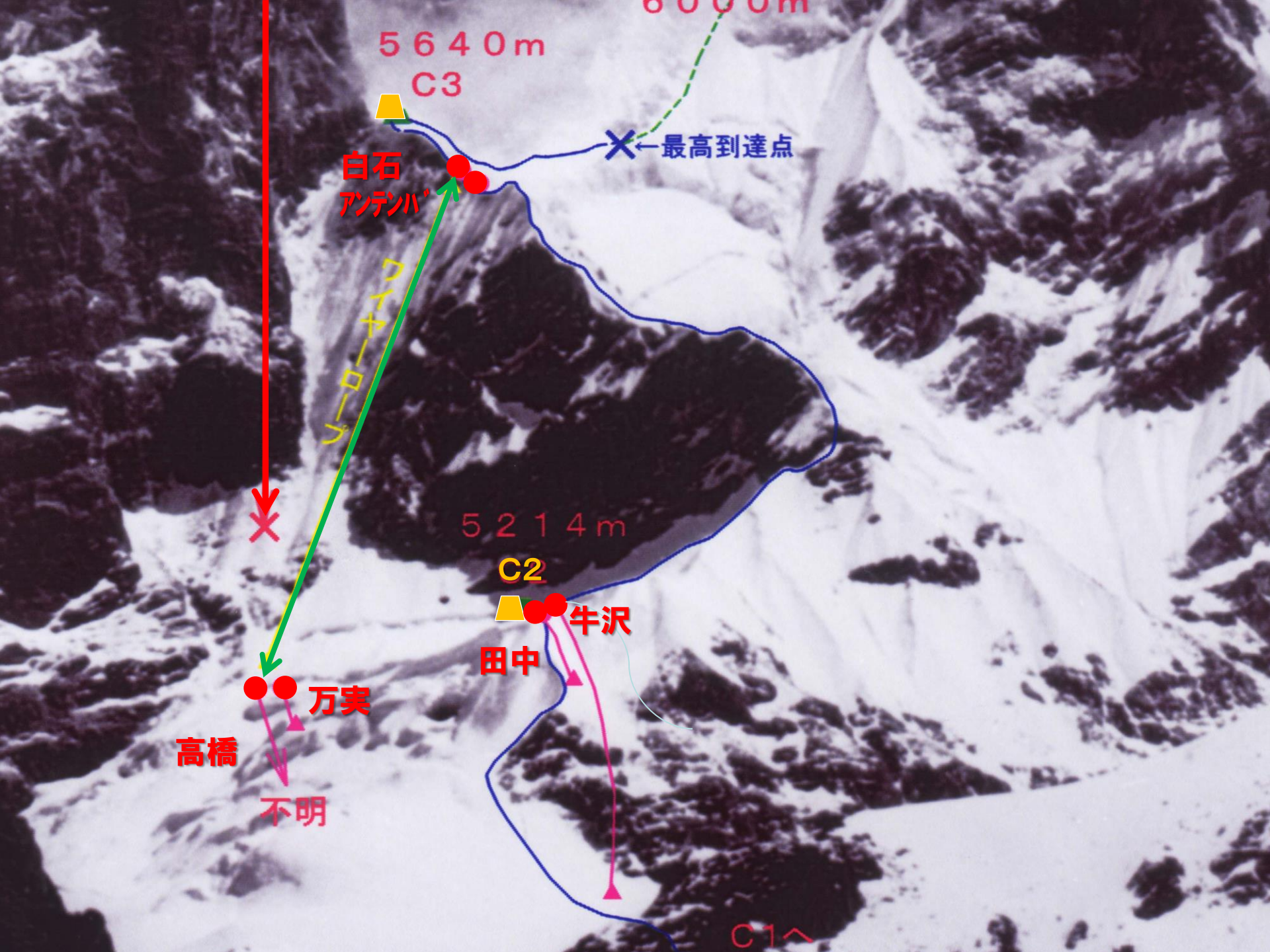
酸素分圧が1/2となり、呼吸は苦しい

大岩壁に向かってトップを登る

初めて印す足跡に気分は高揚！！！



1978年9月
西壁のアイスホールが崩落
3隊員死亡事故⇓
原点


6000m
5640m
C3
←最高到達点
白石
アンテンバ
ワイヤーロープ
5214m
C2
牛沢
田中
万実
高橋
不明
C1へ

高橋隊員の捜索

しかし……

発見できず！

（ポラロイドカメラ写真）

2隊員の埋葬地 （C2下の台地）

ポーターが腹痛(腸閉塞)でヘリ要請→飛来

←ご遺族訪ネ情報が重なる

←腹痛ポーターと隊長カトマンズへ飛行

←再度ヘリを飛ばして→遺品を回収

←隊長＝一時帰国→遺品引渡と説明

←ふたたびカトマンズへ戻り、本隊と合流

合同追悼会（東京八丁堀）

体験を通して

登山を考える

考える上での基礎事項－1

量子物理学から

観測により、目に見え、数える、ことができる物質の存在は、
宇宙総体のたった5％未満。（科学的証明の限界）
95％以上はダークマター（暗黒物質でまだ分からない）

相対性理論から、観測者の視点の違いにより、空間的・時間的な結果は異なる。

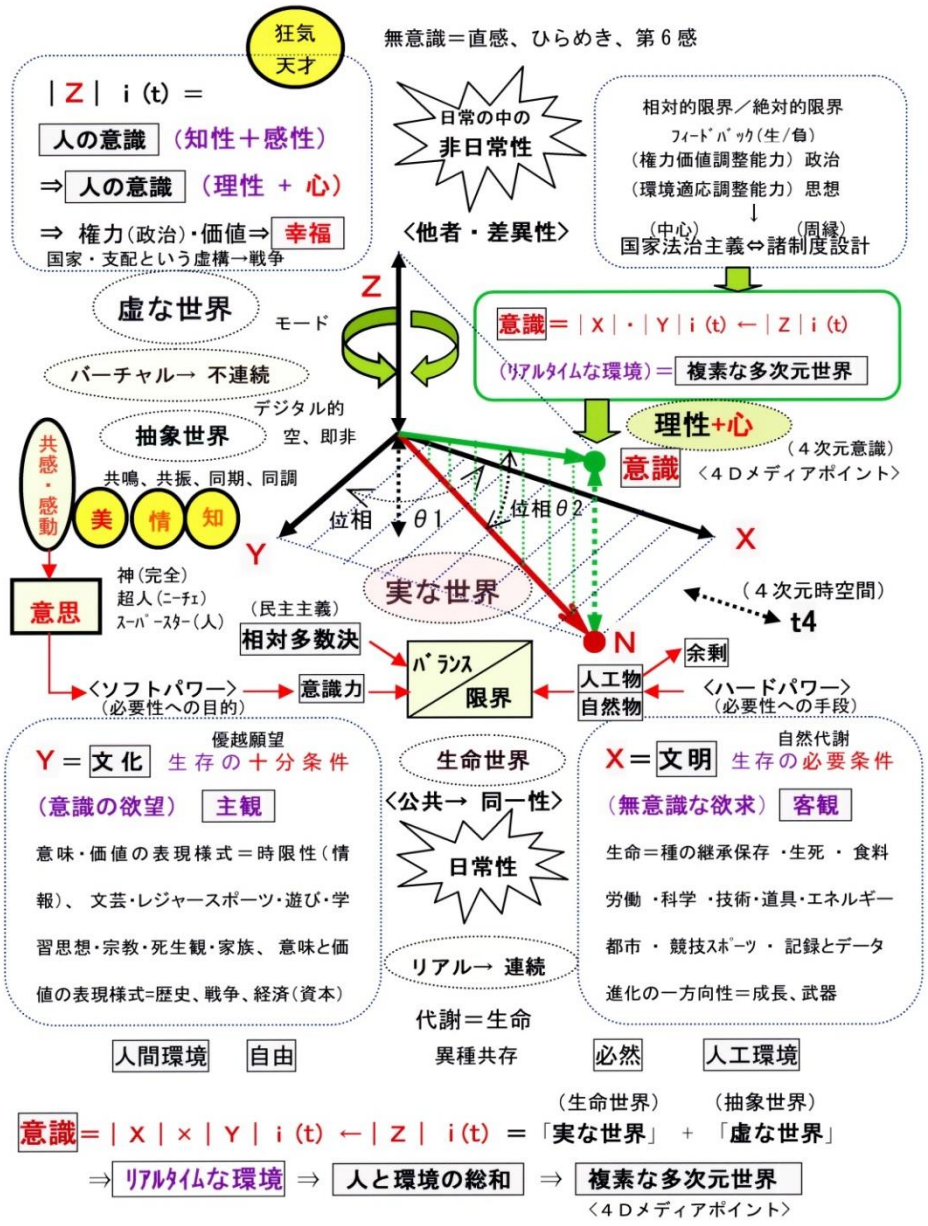
客観的とは ＝ いかなる観測者（見る）によっても、同じ結果を得ること
（真実の普遍性）←アナログ性

主観的とは ＝ 一人の観測者（見る）が得る結果で、必ずしも他の観測者が、
同じ結果を得られるとは限らないこと （真実の断片性）←デジタル性

認 識 とは ＝ 人間の意識は、5感による入力信号により、脳内でイメージを形成し
認識となる。 その時間は最大で 0．5秒 遅れる。←全て過去事象か？
ベンジャミン・リベット 『マインド・タイム』（脳と意識の時間を発表）

複素的世界観 ＝ **実数＋虚数** ＝ **実物世界（客観的）** ＋ **感性世界（主観的）**

［図―１］ 人の意識・文明・文化＝環境の複素的な世界構造



通信脳
↓
複素的世界観
↓
人工知能以降の世界観

登山の総合人間学

発行＝2015年12月
A5版 266頁
非売品
ホームページ公開
国立国会図書館保存

考える上での基礎事項－2

分子生物学から

生体を構成している分子は環境からやってきて、一時、「淀み」として私たちの体を作り出し、次の瞬間にはまた環境へと解き放たれる。環境は常に私たちの身体を通り抜けている「流れ」そのものであり、その「流れ」自体が「生きている」ということになる。

「生命」とは、「動的な平衡状態にあるシステム」である。

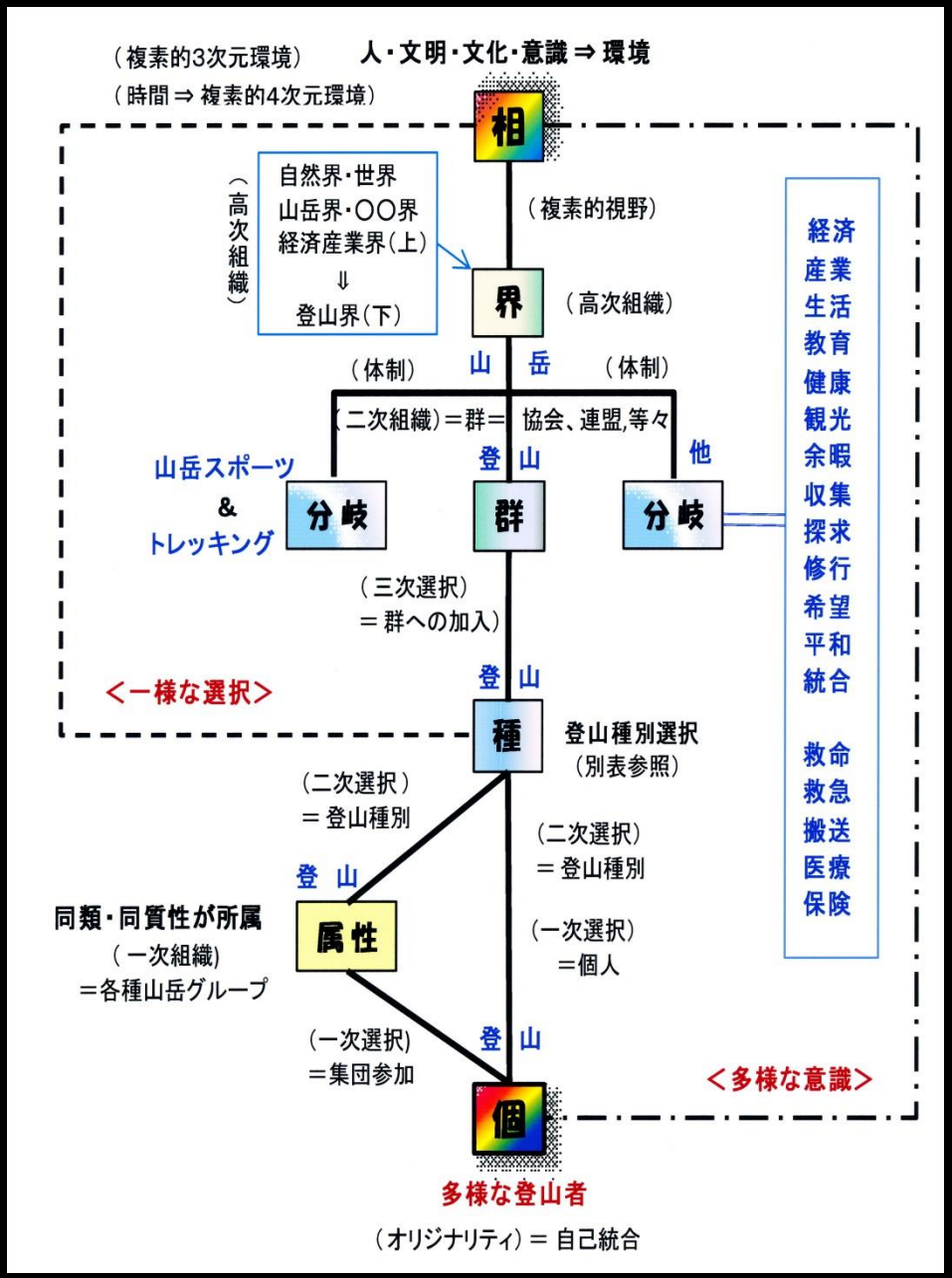
シェーン・ハイマーが提唱 → 「動的な平衡」：福岡伸一

動的平衡理論から、分子によって作られる物質は、絶えず空間的・時間的な流れの中で、代謝 を繰り返し変容している。 だから人間は、次世代への引継ぎ（代謝）が大切！！

生命とは ＝ 環境の中で、代謝 を続けながら持続している様態

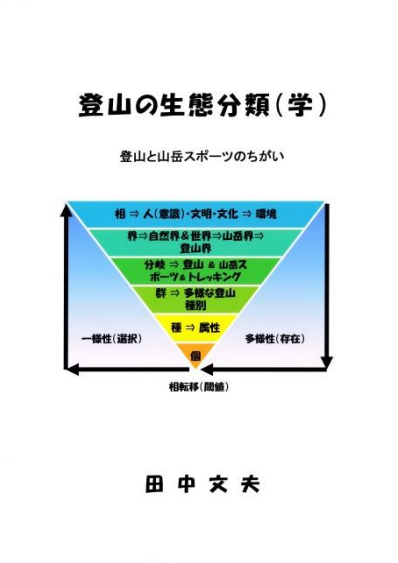
生きるとは ＝ 環境変化の流れの中で、淀みの個体として運動していること

生態分類（学）の構造



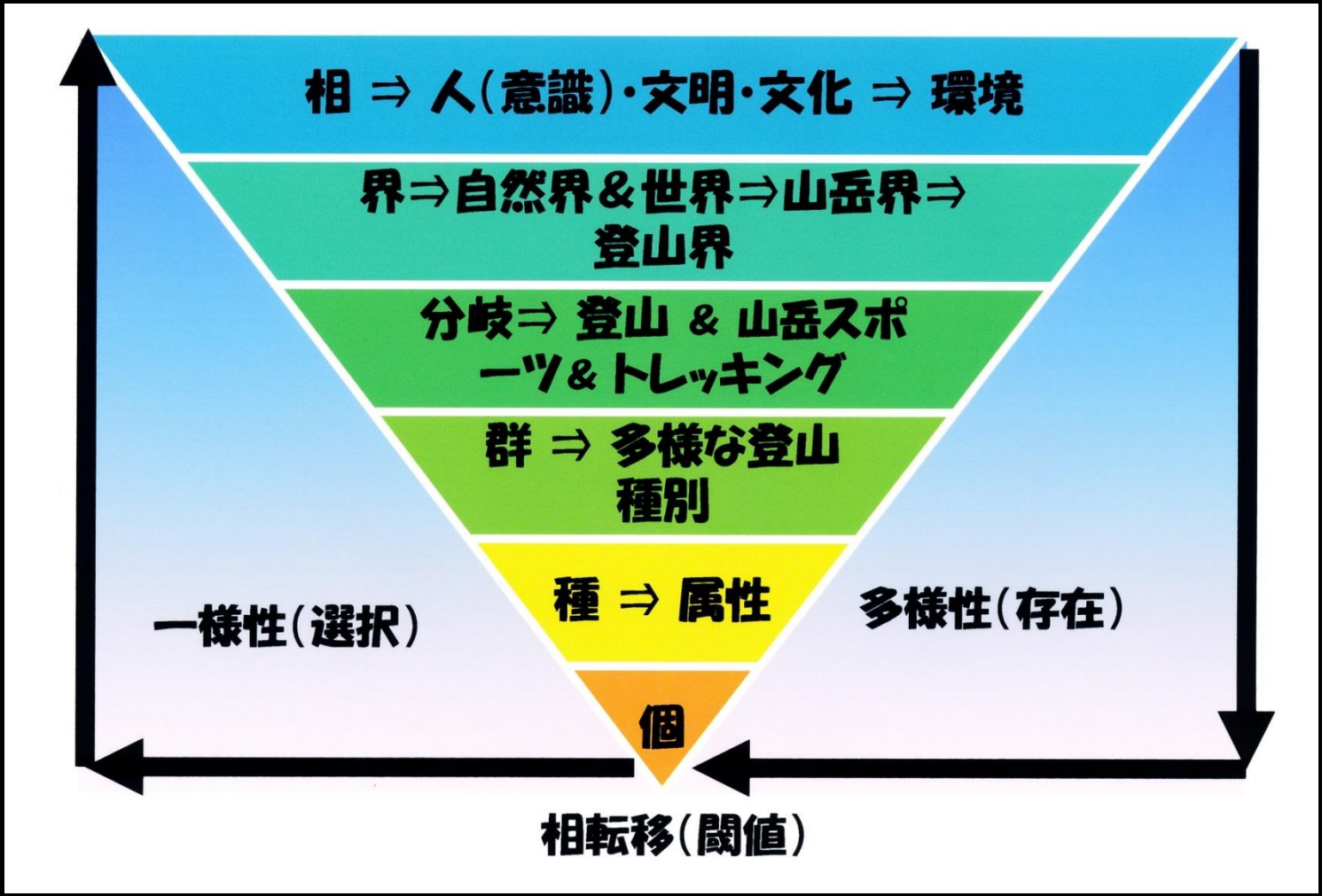
登山の生態分類（学）

発行＝2016年8月
A5版　133頁
非売品
ホームページ公開
国立国会図書館保存



複素的思考法からの相転移

形而上（抽象）



形而下（具象）

生物界における人間の特徴

1） ホモ・サピエンス ＝ 賢い（考える）人間 （考える人）

◆人間は考える葦である・・・フランスの思想家パスカルの言葉（パンセー）

◆ 幸福感、充足感、充実感 ～ 価値観

2） ホモ・ファーベル ＝ 物を作る人間 （文明人）

◆ 道具を作り、生活を豊かにさせる（衣・食・住 → 都市生活） ＝ 日常

◆ 山岳施設整備 → 非日常的環境（自然）を日常性の中に組み込む

3） ホモ・ルーデンス ＝ 遊戯（遊ぶ）人間（文化人）

◆ オランダの歴史家・・・ヨハン・ホイジンガ、1938年発表（1971和訳版）

◆ 登山、山岳スポーツ、ハイキング ～ 健康運動、運動競技、知的遊び

4） ホモ・エコノミクス ＝ 経済合理主義的人間（経済人）

◆ 経済の本質 ＝ 経世済民 → 資本独占（私利私欲） → トランプ現象

経世済民 ＝ 中国のことわざ ➡ 世を経（おさめ）、民を済（すくう）

登山と山岳スポーツのちがい

※　登山をスポーツと考えることにより、死の意識が薄れる

登山　と　山岳スポーツ　は別もの

構成と構造を「分類表」に一覧

登山の特徴

◆　行動の中に「死の意識」が潜在する

◆　自然の中で途中リタイアが困難

◆　クライシス・マネジメント(死)を要する

スポーツの特徴

◆　「安全確保」規則と体制の下で競技

◆　途中リタイア、反復可能なゲーム性

◆　リスク・マネジメント(利害得失)が適用

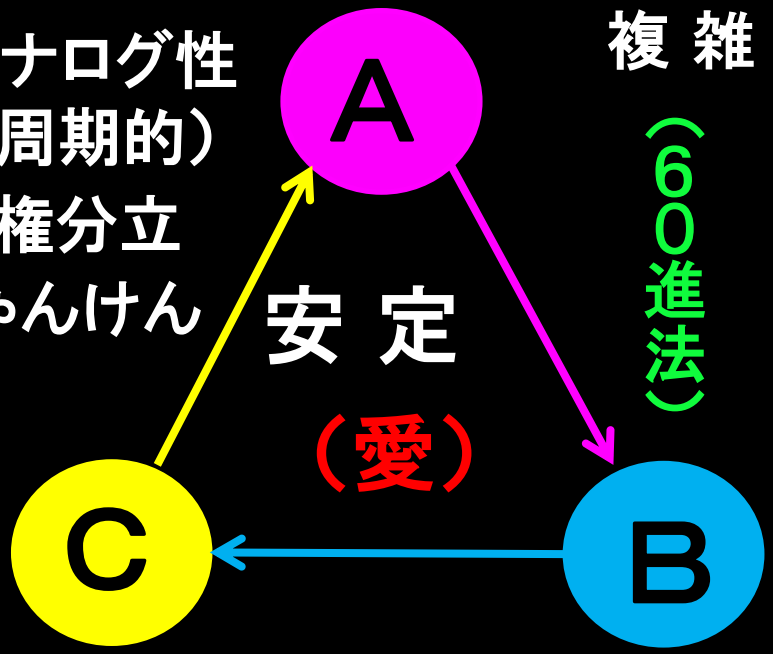
登 山

（文化的＝多様な展開）

心の幸福＝感受性・思索・欲求

自己統合→（愛）

アナログ性
（周期的）
三権分立
じゃんけん



複 雑

（60進法）

同調（自己消滅）の美学→

星の王子さま

死

アルピニズム

美

スポーツ

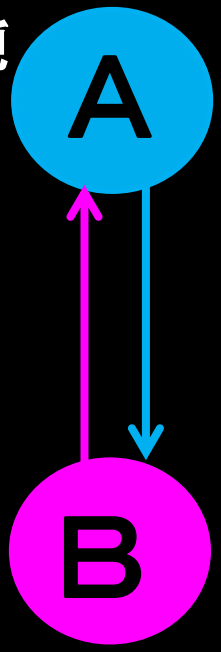
（文明的＝進化の一方向）

運動の幸福＝解放、競技

絶対王者→（神）

単 純

（2進法）



デジタル性
（散逸的）

敵/味方
勝/敗
序列/直線
階 層
確 率

⇦抵抗（自己主張）の美学

かもめのジョナサン

登山とスポーツの文明的役割

登山 ➡ 戦争欲求の抑止力

・自らの死に立ち向かうアルピニズムの内向性は他者への攻撃（戦争）に向かわず → 自己統合（神性）に向かう

スポーツ ➡ 戦争欲求のガス抜き

・スポーツのフェアプレイ精神は闘争（戦争）に歯止めをかけ、全力を尽くす身体はリビドー（性的衝動、本能のエネルギー）を和らげる

※ 男性度が高い → 攻撃性が強い → 文明的社会（勝者生存）

⇅ 男女の相補的結合 ＝ 文明と文化の相補的補完 → 自立社会

※ 女性度が高い → 受容性が高い → 文化的社会（多様共存）

現代登山と山岳スポーツ等の生態分類表

2016.02.02

★スキル (skill) ＝ 学習や訓練を通して獲得する能力
★アイテム (item) ＝ プレーや使用できる用具類

大分類	中分類	小分類	人間的存在の在り方	代表的登山様式	主な行為	心的安定性	生活	構成	参加	社会的制約	安全	技術	自己評価	他者評価	自然評価	社会評価	自然評価	社会評価
位相 / 世界 / 意識	目的 / 意味 / 属性	種別 / 特性	必要一要素が一欲望のスキル / 実存的欲望・意味・欲望の欲望	代表的登山様式	形態 / 空間 / 時間 / 物理的空間性 / 心的空間性	心的安定性	食金	構成員	方式	社会的制約	事故 / 安全確保	安全の技術	対象 / 対比	他者	自然	社会	種別記号	種別
文明的欲求（実存性 ～ 対自欲求）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己登山	欲求の客観性（実相＝記録とデータ）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
山岳環境に関わる「人（意識）・文明・文化・時間＝環境」（人間的諸能力の自立展開）	登山	欲求の主観性（虚相＝感性の享受価値）	欲求	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望
文化的欲望（社会性 ～ 即時欲求）	山岳スポーツ	競技・競争	身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争
		非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性

小分類	種別	特性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性
自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己登山	欲求の客観性（実相＝記録とデータ）	求道	創造 / 未知探求	統合 / 自己充実	愛 / 交流	欲望	社会貢献	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望	欲望
人間的存在の在り方	スーパーアルパイン登山	A-0	A-1, A-2, A-3 を複合	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
必要一要素が一欲望のスキル	アルパイン単独登山	A-1	A-1, A-2, A-3 を複合	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
実存的欲求	アルパイン単独登山	A-2	A-1, A-2	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
実存的欲求	アルパイン単独登山	A-3	A-1, A-2	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
実存的欲求	アルパイン単独登山	A-4	A-1, A-2	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
実存的欲求	アルパイン交流登山	A-5	A-1, A-2	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
実存的欲求	記録型登山（レコード）	B-1	A-1, A-2	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
実存的欲求	記念碑型登山（メモリアル）	B-2	A-1, A-2	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
実存的欲求	収集型登山（コレクション）	B-3	A-1, A-2	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
実存的欲求	健康増進型登山（ヘルス）	B-4	A-1, A-2	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
実存的欲求	観光引率登山（ツーリズム）	B-5	A-1, A-2	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
実存的欲求	社会風潮型（ファッション）	B-6	A-1, A-2	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
遊戯性・芸術性・社会性	自立遊戯型（ワンダーフォーゲル）	C-1	A-1, A-2	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
遊戯性・芸術性・社会性	自立遊戯型（アルパイン・トレッキング）	C-2	A-1, A-2	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）
遊戯性・芸術性・社会性	観光引率型（ツーリズム・トレッキング）	C-3	A-1, A-2	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）	自己統合（向上性＝アルピニズム）

小分類	種別	特性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性
身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	競技・競争	競技・競争	死を排除する条件設定管理下で競技（安全確保体制と自己実践による過上リタイア可能）	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争	競技・競争
身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性	他者相関の記録性
身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性	非記録性

小分類	種別	特性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性	属性
身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	スポーツクライミング	D-1	ボルダリング	ボルダリング	ボルダリング	ボルダリング	ボルダリング	ボルダリング	ボルダリング	ボルダリング	ボルダリング	ボルダリング	ボルダリング	ボルダリング	ボルダリング	ボルダリング	ボルダリング	ボルダリング
身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	スポーツクライミング	D-2	トップロープクライミング	トップロープクライミング	トップロープクライミング	トップロープクライミング	トップロープクライミング	トップロープクライミング	トップロープクライミング	トップロープクライミング	トップロープクライミング	トップロープクライミング	トップロープクライミング	トップロープクライミング	トップロープクライミング	トップロープクライミング	トップロープクライミング	トップロープクライミング
身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	スポーツクライミング	D-3	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）	リードクライミング（スポーツクライミング）
身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	スポーツクライミング	D-4	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）	リードクライミング（ラッド・クライミング）
身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	トレイルランニング	E-1	トレイルランニング	トレイルランニング	トレイルランニング	トレイルランニング	トレイルランニング	トレイルランニング	トレイルランニング	トレイルランニング	トレイルランニング	トレイルランニング	トレイルランニング	トレイルランニング	トレイルランニング	トレイルランニング	トレイルランニング	トレイルランニング
身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	マウンテンランニング	E-2	マウンテンランニング	マウンテンランニング	マウンテンランニング	マウンテンランニング	マウンテンランニング	マウンテンランニング	マウンテンランニング	マウンテンランニング	マウンテンランニング	マウンテンランニング	マウンテンランニング	マウンテンランニング	マウンテンランニング	マウンテンランニング	マウンテンランニング	マウンテンランニング
身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	スカイランニング	E-3	スカイランニング	スカイランニング	スカイランニング	スカイランニング	スカイランニング	スカイランニング	スカイランニング	スカイランニング	スカイランニング	スカイランニング	スカイランニング	スカイランニング	スカイランニング	スカイランニング	スカイランニング	スカイランニング
身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	ウルトラランニング	E-4	ウルトラランニング	ウルトラランニング	ウルトラランニング	ウルトラランニング	ウルトラランニング	ウルトラランニング	ウルトラランニング	ウルトラランニング	ウルトラランニング	ウルトラランニング	ウルトラランニング	ウルトラランニング	ウルトラランニング	ウルトラランニング	ウルトラランニング	ウルトラランニング
身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	ボッカランニング	E-5	ボッカランニング	ボッカランニング	ボッカランニング	ボッカランニング	ボッカランニング	ボッカランニング	ボッカランニング	ボッカランニング	ボッカランニング	ボッカランニング	ボッカランニング	ボッカランニング	ボッカランニング	ボッカランニング	ボッカランニング	ボッカランニング
身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	ウオーキング	F-1	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング
身体諸能力の自立開放と展開（活動欲求）	ハイキング	F-2	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング

動機付け（相関関係）＝自己決定論　予測可能度（不）　内発的動機（内）　取入（取）　同一化（同）　統合（統）

動機付け（相関関係）＝自己決定論　予測可能度（不）　内発的動機（内）　取入（取）　同一化（同）　統合（統）

制作 ＝ 田中文夫（日本山岳文化学会正会員、総合人間学会正会員）
監修 ＝

動機付け（相関関係）＝自己決定論 ⇒ 〈無動機〉＝自らの動機付けはなく、他律的、〈外的〉＝外的調整は報酬や罰などの外部からの統制に従う、〈取入〉＝取入調整はその行動や活動に価値を認めるが、まだ外部からの統制に従う、〈同一化〉＝同一化調整はその行動や活動に価値を認め、機能的に行動を構成する、〈統合〉＝統合調整は自身の価値観とその行動や活動をおこなう価値観が一致し、その行動に取り組む、〈内発的動機〉＝感性・好奇心・活動性・認知

◎＝とてもある、○＝普通にある、△＝少しある、×＝ない

登山の分類（13類型）

登山	自己統合	アルパイン登山	A−0	超人形	メスナー、山野井	
			A−1	単独形	単独登山	
			A−2	複数形	パーティ登山	
			A−3	企画事業形	選抜対価登山	
			A−4	企画公募形	応募有償登山	
	趣味の展開		A−5	交流形	任意無償登山	
		レコード登山	B−1	記録更新形	○○記録	
		メモリアル登山	B−2	記念顕彰形	○○記念登山	
		コレクション登山	B−3	収集蓄積形	7大陸、百名山等	
		ヘルス登山	B−4	健康希求形	自主健康登山	
		ツーリズム登山	B−5	観光引率形	企画形観光登山	
		ファッション登山	B−6	社会風潮形	流行登山	
		ワンダーフォーゲル	C−1	鑑賞自立形	山嶺巡行登山	

山岳スポーツの分類　（11類型）

山岳スポーツ	クライミング	ボルダリング	D-1	ロープなし	高さ 5m 以内	国体
		トップロープ・クライミング	D-2	ﾄｯﾌﾟﾛｰﾌﾟ形	12m 以上のハング	
		リード・クライミング	D-3	スポーツ形	12m 以上のハング	国体
			D-4	トラッド形	ﾅﾁｭﾗﾙ・ﾌﾟﾛﾃｸｼｮﾝ	
	ランニング	トレイルランニング	E-1	山野を走る	自然の路面、高低	
		マウンテンランニング	E-2		登下降	
		スカイ・ランニング	E-3		標高 2,000m 以上	
		ウルトラランニング	E-4		42.195km 以上	
		ボッカランニング（駅伝）	E-5		荷を背負う	
	歩行	ウオーキング	F-1	山野を歩く	○○ウオーキング	
		ハイキング	F-2	山野を散策	○○ハイキング	

トレッキングの分類 （2類型）

トレッキング	アルパイン・トレッキング	C-2	鑑賞自立形	自立形山岳巡行	
	ツーリズム・トレッキング	C-3	観光引率形	企画形山岳巡行	

クライシス・マネジメント

と

リスク・マネジメント

クライシス・マネジメント

戦争による国家崩壊への対処から研究が始ったもの

◎ トップリーダーの主たる役割（マネジメント）

◎ ある状態が崩壊し、元に戻らない事象への対処

・生 ➡ 死

（ 生＝個人、地域社会、国家、民族、・・・・・生物種 ）

・原子力発電 ➡ 炉心のメルトダウン

（ 原子、分子、個体 ・・・・・ 物質 ）

・自然事象 （そこに人がいる場合は自然災害）

◎ 対処法

・崩壊をくい止めるあらゆる手段を即時に尽す

リスク・マネジメント

日常生活における一般的なマネジメント

◎　セカンドリーダー以下の役割（マネジメント）

◎　ある状態が変容・変形しても、復元・再利用可能な場合への対処

・一般社会生活のほとんどの部分

◎　対処法

・利害得失を精査し、バランスシートを作成する

・優先順位を判断し、適正化へ収斂させる

つまり　➡　構想～計画～設計～実施～保全

クライシス・マネジメント
リスク・マネジメント
の直近実例

2016.11.03　丹沢・水無川・作治小屋

中村純二先生　93歳（東大名誉教授、第3次南極越冬隊員）**倒れる**

①【 前夜の団欒会 】

②【 前夜の団欒会 】

③【早朝の餅つき】

④【 つきたてのからみ餅を食べる 】

⑤【つきたて餅を食べる中村 先生ご夫妻 】

⑥【 食後に中村 先生意識を失う 】

⑦【即時に救急車要請 ➡
約30分後到着 】

⑧【 救急車内で検査 ➡
心電図、血圧、脈拍、呼吸数 、等】

⑨【 救急隊長と交渉 ➡ 異常なしを確認
本人意思の判断で対応を図ることを説得 】

⑩【意識・判断は正常に戻り、救急隊に
念書を残し、講演会は実施とする 】

クライシス・マネジメント

意識喪失 ➡ 死の可能性 ➡ 救急車要請

救急隊検査（心電図、血圧、脈拍、呼吸数）➡正常

リスク・マネジメント

事実を確認 ➡ 緊急性なし ➡ 最適判断

① 救急隊の要望 ➡ 病院へ搬送し再確認

② リーダーの意見 ➡ 本人意思の尊重

（予定通り講演会実施）

※ 講演会聴講者に医師、看護師がいる（学会有志）

※ 万一の時は再度救急出動します（救急隊）

かつてのヒマラヤ登山は

↓

総　合　力

↓

現代はお金で代行

↓

産　業　化

↓

分業化され全体が分からない

外交、輸出入、為替、交渉力、判断力、英語力、登攀力

外交交渉

- 外務省（許可申請）、ネパール政府登山規則

輸出入

- 国際船便、インド国内陸送、通関、関税

為　替

- 差益、差損（USドル、ルピー、バーツ、円）
  バンクレート　、　ブラックマーケット

交渉力

- ネパール政府観光省（リエゾンオフィサー同行）
- 現地雇用（シェルパ、ポーター）、現地購入

交渉は自主努力が不可欠

外務省

・日本隊は外務省を通して登山許可を申請・取得する
・ネパール政府の登山規則による

日本大使館

・ネパール政府と日本外務省との連絡役

ネパール政府観光省

・ネパール国内での登山活動に関連する全ての権限

登山隊

・全ての報告はネパール政府を通しておこなう
・そのため、リエゾン・オフサーが同行する
・報告は全て英語　（登山中、英語で夢を見る）

緊急時への事前対応

外務省・日本大使館

・外交手続きと儀礼程度にとどめる　（期待しない）

登山隊の自主対策　（事前準備が不可欠）

・緊急連絡方法の確立　（軸となる手配者を特定）

体制、無線、出動・待機のサイン、ヘリ着陸マークの確認

・緊急輸送手段の確保と医療機関の特定

ヘリコプター、人力、（車）

・緊急用資金の確保と預託

① 生命保険加入一人50万円　（掛金一人5万円）遭難対策用

② ヘリコプター・フライト費用＄3，000　を預託（ヒマラヤンジャー　ニー）

遭難事故後の報告

- ネパール政府　→　英文報告書提出（写真付）
- 日本大使館　→　和文報告書提出
- ご遺族　→　遠征途中で隊長一時帰国
  遺品の引渡し、状況説明
  ※保険金返却（一人50万円）
  ※命日前後に訪問（10年間）
- その他関係者　→　帰国直後に合同追悼会
  手書き報告書配布

20年後の報告 →「青春のヒマラヤに学ぶ」出版

現代ヒマラヤ登山が 高所遠足 といわれるゆえん

1） エージェントに対価を支払ってマネジメントをゆだね、登山者は単純行為者となった

2） そのことは、登山者の人間力形成へのチャンスを失い、登山のもたらす総合力を低下させている

3） 商業化（ツアー登山等）は、有名場所に集中し、山岳に日常性を持ち込み、山岳の非日常的体験の場を失わせ、人間総合力を弱めている

では！　どうすればよいか　・・・

・・・ 棲み分けが必要

1）　非日常的山岳環境の確保

非日常環境（冒険・探検）保全区域に、日常環境（日常生活）を持ち込まない（非日常的環境確保）

2）　受益者負担の原則

・環境利用料（例＝登山税）

・入場料、施設利用料（水・トイレ・宿泊）

3）　環境（山岳）文化の啓蒙

・日常生活と非日常生活を意識して切り替える

・環境（山岳）文化を普及（意識）させる

登山は自己責任 → 現代は社会制度化

＜ 責任には・・・負える 限界 がある ＞

負 える 責任（限界） ： 相対的限界（復元可能）
・リスク・マネジメント

負えない責任（限界） ： 絶対的限界（復元不可能）
・死 ・破壊 ・喪失 ・etc
・クライシス・マネジメント

冒険・探検する時は責任の限界を意識し、
出来る時、できる事の最善を尽くす←出来ない事の方が多い

もし失敗した時 リーダーは

→ 適切な批判には耳を傾ける
- 不適切な批判は無視する
- 合理的・論理的に検証し次に生かす
- 時を得る（心の沈静化）

人生はいつも山登り

- 山頂　＝　その時々の様々な目標
- 荷物　＝　その時々に背負っている責任
- 登山　＝　自然に逆らって（不条理）目標を目指す

だから当然、危険と背中合わせ！・・・・　逆説の美学

◆楽しみは後からやってくる　←　だから最初は苦しい
◆一つの目標が終わると、次の目標が見える
◆究極の目標　→　実は　「・・・　何もない」

だれも人生の予知はできず、
苦しくもあり、また楽しくもある

長時間のご静聴
誠にありがとうございました

講話＝in 日本山岳会（三水会）

2018年11月21日（水）

田　中　文　夫